

備後の若者大志抱こう

福山大と本社
連携シンポ
学長ら5人が提言

福山大学と中国新聞が二十二日、福山市丸社の連携シンポジウム「之内の福山大学社会連



若者のまちづくり参加や人材づくりを話し合ったシンポジウム

携研究推進センターであった。八日にオープンしたセンターの開館記念行事の一つで「地域の若者に期待する」をテーマに牟田泰三学長ら五人のパネリストが意見交換した。

牟田学長のほか、中国新聞備後本社の兼重収代表、JFEスチール西日本製鉄所福山地区の赤石幹雄総務部長、喜多流能楽師の大

動画は中国新聞HPで
読者会員限定

島衣恵氏、ゲタリンピック実行委員会部会長の徳永明彦氏が、若者をまちづくりに呼び込む方策や企業が求める若者像を話し合った。

福山市には二大学一短大があるが、地元企業へ就職する割合が少ないという。徳永氏は「福山のモノづくりの歴史を知れば、地域の企業への関心も増すのでは」と指摘。大島氏は「歴史や文化を知ることでも町づくりにも興味を持つ」とした。赤石部長は「自分で考える感受性と問題を発掘し解決策を生み出す人材がほしい」と述べ、牟田学長は「目標を設定することが学生には大切。それを指導するのがわれわれの役目だ」と話した。(赤江裕紀)

08/11/16 中国新聞

back

27日付朝刊に詳報を掲載します。